熊谷スマートシティ実行計画（熊谷スマートシティ推進協議会）

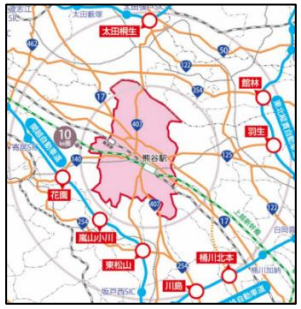
令和３年７月
（令和５年１２月更新）

■ 事業のセールスポイント

本市の課題解決に向けたスマートシティ戦略のコンセプトとして、市民目線でデータ利活用を推進し、まちのにぎわいと魅力を創出するとともに、市民にも来訪者にも優しいまち「やさしい未来発見都市 熊谷」を目指す。

■ 位置図

- 東京都心から50～70km圏に位置。
- JR熊谷駅から東京駅まで上越・北陸新幹線で約40分、在来線では上野駅や新宿駅まで60分台でアクセス可能。
- 秩父方面や羽生方面から秩父鉄道も乗り入れており交通の要衝である。



■ 対象区域の概要

名称：埼玉県熊谷市
面積：159.82k㎡
人口：192,553人（令和５年10月１日現在）
その他：利根川と荒川のもたらす肥沃な台地を背景に農業・工業・商業がバランスよく発展。上越・北陸新幹線に代表される鉄道を中心とした公共交通機関の発達、４つの国道の接続する道路網の充実により、埼玉県北部の中心都市としての機能を担う

■ 対象区域のビジョン

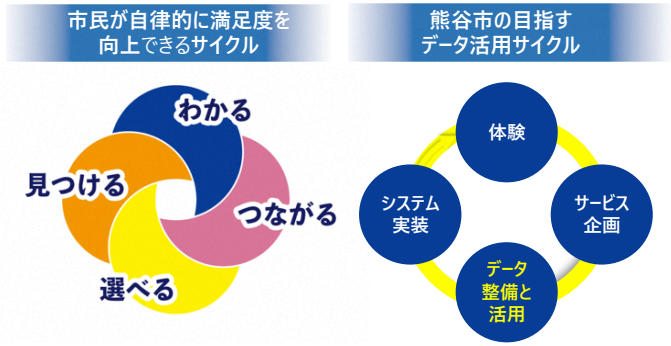
「やさしい未来発見都市 熊谷」の実現に向けた取組の展開

■ 本事業全体の概要

本事業においては以下2点を踏まえ、熊谷スマートシティの推進を図る。

①熊谷スマートシティのトータルブランディング方針

本市が行うスマートシティ政策のブランドアイデンティティの統一のため、スマートシティ政策の範囲や考え方、基本的な方針、キーワード等を記載した「熊谷スマートシティのトータルブランディング方針」を定め、２つのサイクルが好循環するイメージの明確化及び、熊谷スマートシティにおけるデザイン、ビジュアル、キーワードなどの統一化を図る。

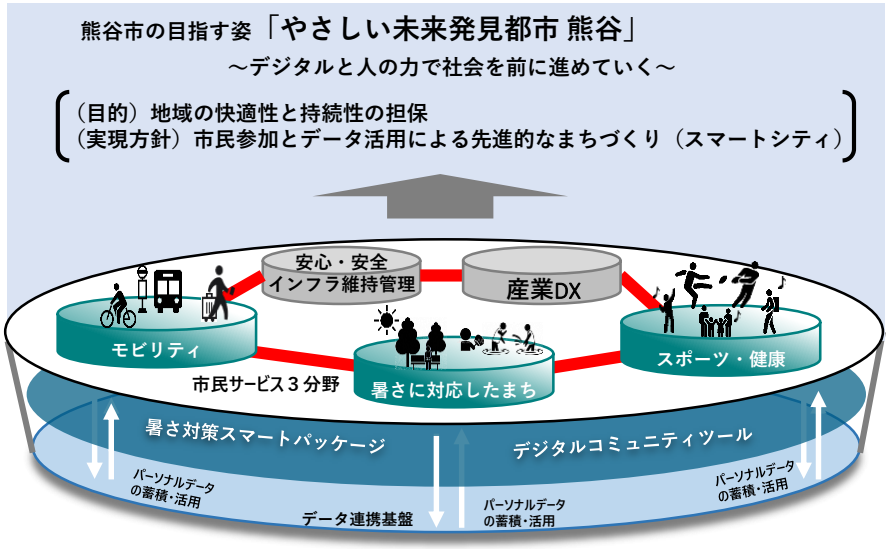


②「やさしい未来発見都市 熊谷」実現のためのスマートシティ戦略

市民目線でデータ利活用を推進し、まちのにぎわいと魅力を創出するとともに、市民にも来訪者にも優しいまち「やさしい未来発見都市熊谷」を目指す。

また、課題解決に向けた具体的戦略として、「デジタルコミュニティツールの導入」と「暑さ対策スマートパッケージの提供」を中心としたスマートシティサービスを展開する。

目指す姿と取組目標
重点的に取り組む５分野
２つの柱に対応した取組
基盤



熊谷スマートシティ実行計画（熊谷スマートシティ推進協議会）

令和３年７月
（令和５年１２月更新）

■ スマートシティの目標（ＫＰＩの設定）

課題解決に向けたＫＰＩを以下のように設定する。ＫＰＩの有効性については毎年度確認を行い、必要に応じて見直しを行うことで成果の検証方法についても改善していくことを想定する。※ＫＰＩ（Key Performance Indicator）＝重要業績評価指標

※一部（主要3分野）の指標について記載

【アウトプット指標】

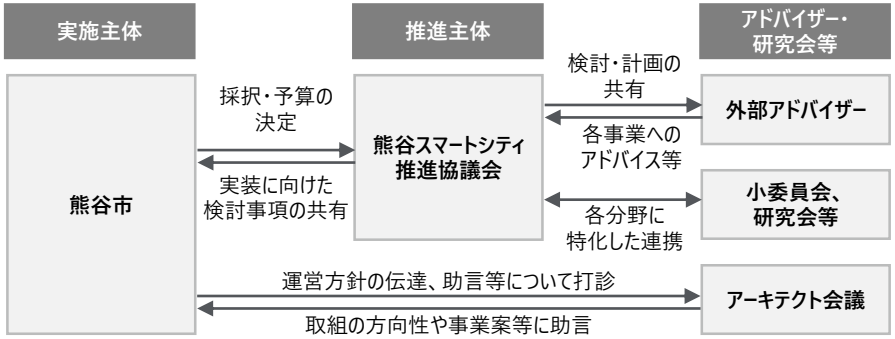
分野	ＫＰＩ【計測指標単位】	令和３年度末	令和４年度末	令和５年度末	目標値 令和６年度末	目標値 令和７年度末
暑さに対応したまち	暑さに負けない快適で活力のあるまち					
	クマぶらの利用登録者数（前年度からの増加数）【人】	3,176（実績値）	6,862（実績値）	25,000（20,000）	50,000（25,000）	55,000（5,000）
	地域電子マネー・コミュニティポイントアプリの利用登録数【人】	－	－	25,000	50,000	55,000
	地域電子マネー利用加盟店数【店】	－	－	1,000	1,100	1,200
	暑さ対策スマートパッケージサービスアクセス回数【回】	－	－	1,000	9,000	18,000
モビリティ	便利で快適な公共交通サービスが整備された回遊性の高いまち					
	コミュニティバスのスマホ回数券購入者数【人】	－	－	1,000	2,000	3,000
スポーツ・健康	市民だけでなく誰もが魅力を感じ訪れたくなるまち					
	スポーツイベントスタンプラリー参加者数【人】	－	139（実績値）	500	550	600
	県の新たな健康管理アプリ登録者数【人】	－	－	－	2,500	2,600

【アウトカム指標】

分野	ＫＰＩ【計測指標単位】	令和３年度末	令和４年度末	令和５年度末	目標値 令和６年度末	目標値 令和７年度末
暑さに対応したまち	暑さに負けない快適で活力のあるまち					
	クマぶら利用満足度【ポイント】	－	－	3.2	3.4	3.8
	外出機会の増加度【%】	－	－	－	前年比＋10	前年比＋10
	地域電子マネー・コミュニティポイントアプリサービスの満足度【ポイント】	－	－	3.5	4.0	4.2
	暑さ対策スマートパッケージサービス満足度【ポイント】	－	－	3.2	3.6	4.0
モビリティ	便利で快適な公共交通サービスが整備された回遊性の高いまち					
	スマホ回数券利用率【%】	－	－	50	60	70
	スマホ回数券の満足度【ポイント】	－	－	3.2	3.6	4.0
スポーツ・健康	市民だけでなく誰もが魅力を感じ訪れたくなるまち					
	スポーツ活動をしている市民の割合【%】	47.8	40.6	65.0	65.0	65.0
	健康であると感じている市民の割合【%】	68.4	80.0	80.0	80.0	80.0

■ 運営体制

熊谷スマートシティの取組体制は、本市が抱える多様な課題解決に向けた実証的取組が可能な事業実施体制の構築を図るため、「官・民・学」が連携した熊谷スマートシティ推進協議会」を中心に構成される。



■ 導入技術

「デジタルコミュニティツール」の活用と、本市が培った暑さ対策のノウハウを活かした「暑さ対策スマートパッケージ」の提供など、先進的技術を積極的に活用しながら、各分野でスマートシティサービスを展開し、本市の目指すまちづくりの実現を目指す。

デジタルコミュニティツールの導入

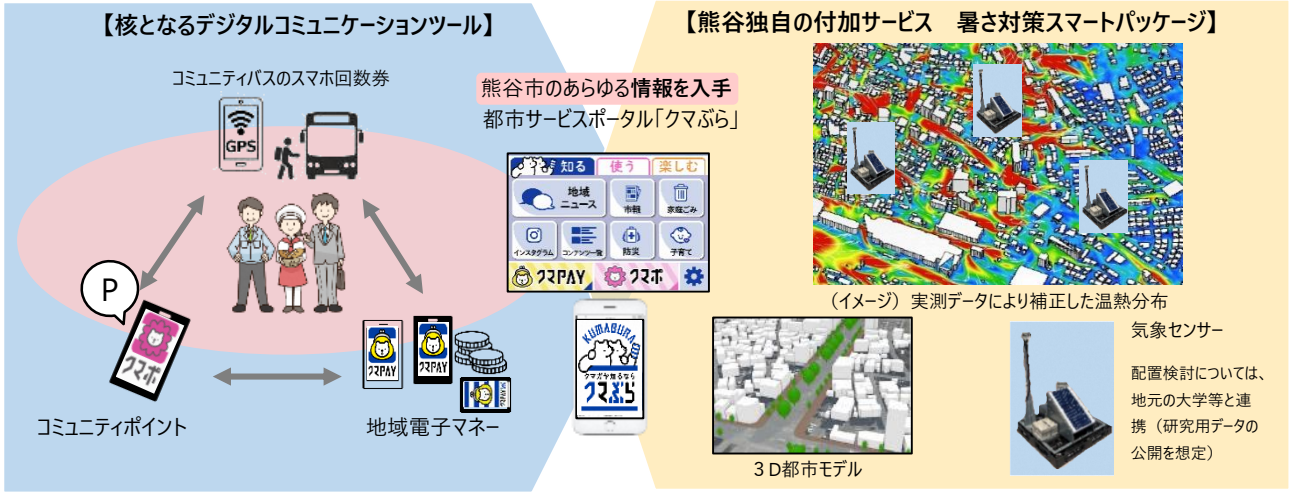
熊谷スマートシティサービスの入口となる都市ポータルアプリ「クマぶら」を中心に、地域電子マネー、コミュニティポイント、コミュニティバスのスマホ回数券を導入する。

暑さ対策スマートパッケージの提供

本市が長年培ってきた暑さ対策のノウハウを活かし、夏の暑さの中でも市民や来訪者が快適にまちなかを回遊できるよう、ヒートエリア、クールシェアスポットを地図上に重ねて表示する「暑さ対策スマートパッケージ」を提供し、コミュニティポイントとも連携する。

データ連携基盤の導入

スマートシティ戦略を支える重要なプラットフォームとして「データ連携基盤」を構築する。



熊谷スマートシティ実行計画（熊谷スマートシティ推進協議会）

令和３年７月
（令和５年１２月更新）

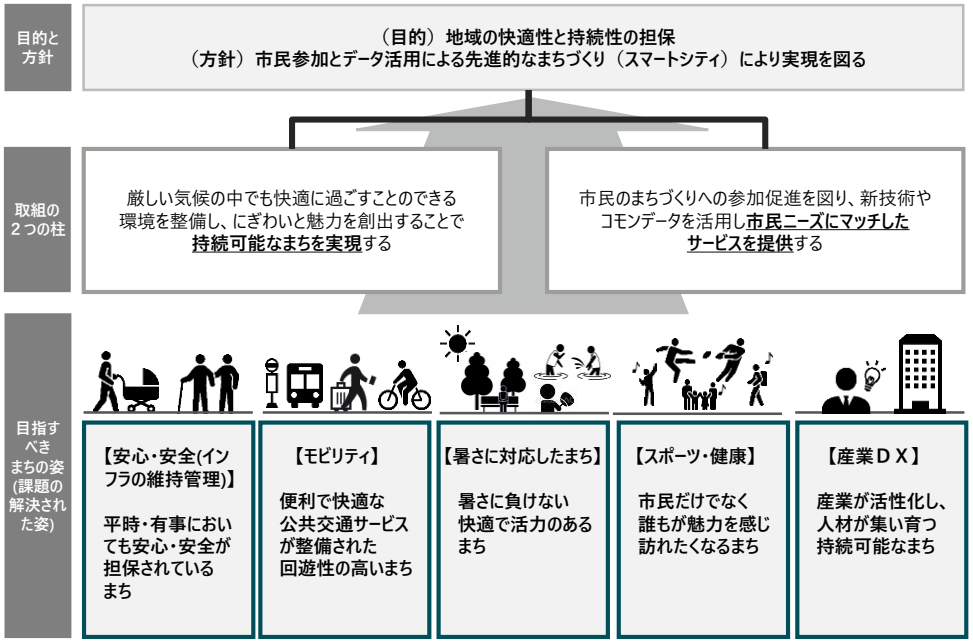
3

■ 区域の将来像

人の力（市民参画等）とデジタルの力（データ活用等）により地域の持続性を確保する。

- 公民連携のまちづくりにより、熊谷特有の「暑さ」を含む四季を通じた豊かな住まい方、まちなかでの魅力的な過ごし方などを創出することで、地域活力の増大や関係人口の増加を図り、持続可能なまちを目指す。
- 市民のまちづくりへの参加促進を図るとともに、デジタル手法を活用したコミュニティの活性化、新技術やコモンデータ※の利活用を通じた市民ニーズにマッチしたサービスの提供に取り組む。
- 取組の柱となる上記二項目の達成のため、市民生活に密着した各分野において、スマートシティサービスを展開する。

※コモンデータ ：熊谷スマートシティ推進協議会において、行政が提供するオープンデータ以外にも、民間から公共的な活用に向けて提供されるデータを含めて表現する場合に用いる用語。



■ スケジュール

令和３年度においては、各取組の詳細化を行うとともに、暑さに対応したまち分野に関するニーズ把握及び実証実験を行う。令和４年度以降は令和３年度の詳細検討を踏まえた実証実験を展開し、令和５年度以降に順次、各分野のスマートシティサービスの実装を目指す。

※ロードマップは各年度における検討状況等を踏まえ、毎年度更新を行うことを想定

【データ連携基盤・都市ポータルアプリにおけるロードマップ】

実施項目	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
データ連携基盤	基本方針検討・設計		システム構築・サービス検討	実装・運用	
都市ポータルアプリ「クマぶら」	サービス設計 システム構築	実装・運用（まちあるきアプリに特化）		運用継続（都市ポータルアプリとしての機能拡充）	

【市民サービス３分野におけるロードマップ】

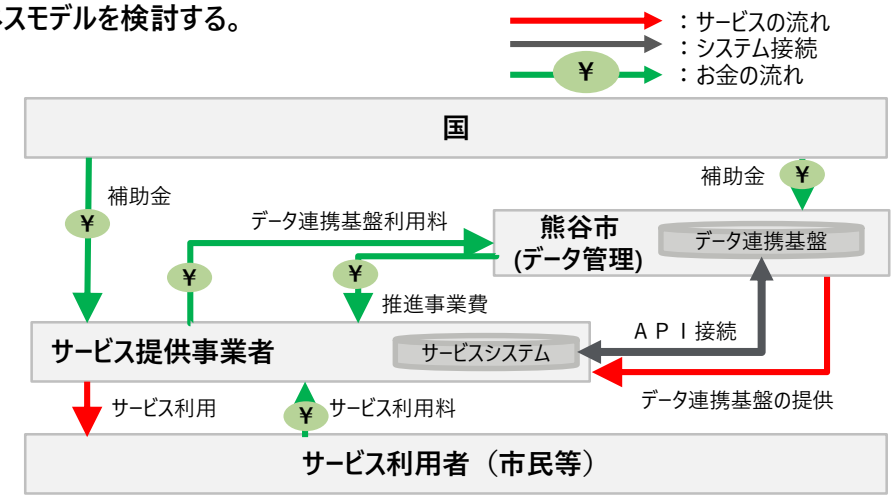
	実施項目	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
暑さに対応したまち	暑さ対策スマートパッケージの展開	ニーズ把握方針検討		サービス内容検討・実装準備 暑さシミュレーション作成	実装・運用	
	熊谷版スマートハウスの確立・普及	熊谷版スマートハウスの仕様検討	モデル地区の整備・データ活用実証	市内新築へのモデル展開（実装）		
	都市環境シミュレーションを活用した街区設計	街区設計手法の検討	街区設計手法を活用したスマートエコタウン事業の適地選定・街区設計		スマートエコタウン整備（実装）	
	地域電子マネーの導入による買い物負担の軽減と商業振興		ニーズ把握・サービス検討	実装・運用		
	コミュニティポイントの導入による活力と賑わいの創出		ニーズ把握・サービス検討	システム構築	ニーズ把握方針検討	
モビリティ	ＡＩオンデマンドを含めたＭａａＳの導入検討		ニーズ把握・サービス検討	ＭａａＳ部会、小委員会で検討	計画策定	実装・運用
	コミュニティバス「ゆうゆうバス」の回数券を電子化		ニーズ把握・サービス検討	実装・運用		
	人流データ分析によるまちの魅力創造と新たなモビリティサービスの検討		リアルサービスとデジタルサービスの充実	人流データの測定	人流データの分析と可視化	
スポーツ・健康	パブリックビューイング等を活用した遠隔によるスポーツ体験			ニーズ把握	サービス検討	実装・運用
	スポーツ観戦前後も楽しめるまちづくり	技術・サービス実証 アプリ構築		実装・運用		
	埼玉県の新たな健康管理アプリを活用した健康増進	県健康増進アプリ運用	技術・サービス実証・データ活用検討	新アプリ開発(県)	新たな健康管理アプリの運用	

熊谷スマートシティ実行計画（熊谷スマートシティ推進協議会）

令和３年７月
（令和５年１２月更新）

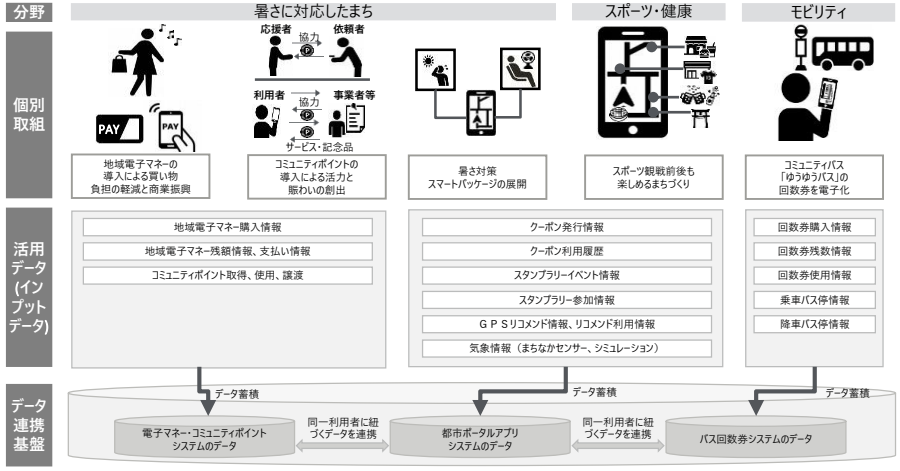
■ ビジネスモデル

熊谷スマートシティを持続可能な取組とする仕組みとして熊谷スマートシティビジネスモデルを検討する。



■ データ活用

本市のスマートシティの取組目標として掲げる「地域の快適性と持続性を担保し、市民参加とデータ活用により先進的なまちづくり」の実現に向け、各分野においてデータを活用した取組を実施する。



■ デジタル人材の育成

熊谷スマートシティが将来にわたり持続・発展していくために、具体的取組の実装と併せ、以下の各分野において人材育成に係る取組を実施し、熊谷スマートシティの持続的発展に向けた好循環を生み出す。

市民に対するスマートシティ・ＤＸに係る多様な機会創出

あらゆる世代の市民に対し、スマートシティやＤＸ、データ活用に係る多様な機会を積極的に提供する。

３Ｄ都市モデルの活用に係る市民ワークショップや本市のまちの未来を描く「シーンスケッチコンテスト」等のイベント開催など、市民が熊谷スマートシティやＤＸの推進に参画できる機会を数多く創出することにより、ＩＴリテラシーの底上げや、公民が連携したデータ活用まちづくりへの機運醸成を図る。



シーンスケッチコンテスト



３Ｄ都市モデル市民ワークショップ

市役所内部におけるＤＸスキルの向上と蓄積

市民や産業分野のデータ活用・ＤＸの取組を促進するためには市役所が率先してデジタル人材育成に取り組み関係者のつなぎ役を果たすことを目指すべきであり、市役所職員全体に対するＩＴ、自治体ＤＸ、ＥＢＰＭ等のリテラシー向上の取組と並行して、熊谷スマートシティの持続サイクルの上で必要なスキル・視点の定着を図る。

産業ＤＸの推進・産業創造

- 市内事業者のＤＸを応援する取組や、自社のＤＸ化を推進する取組に対し、ふるさと納税型クラウドファンディングを実施し支援する。
- 市内におけるスマートシティに係る実証実験等を積極的に誘致する。
- 気象センサーの観測データ、各種コモンデータ、シミュレーションや分析結果などを本市の資産として活かす方策として、外部人材や大学等の研究機関と連携し、本市において実証されたデータ取得や分析の手法等を他都市で応用可能な形で整理し、ビジネス化することを目指すワークショップ等を検討する。



ふるさと納税型クラウドファンディング